

11月29日(日曜日)

月山富田城から松江城へ

戦国大名で松江開府の祖、堀尾吉晴ゆかりの月山富田城(安来市広瀬町富田)と松江城(松江市殿町)を結ぶウォーキングイベント「国宝松江城歴史探訪ウォーク」が28日、開かれた。県内外から153人が参加し、初冬の寒空の下、歴史に思いをはせながら心地よい汗を流した。

松江城の国宝指定に合わせ、城西公民館(同市堂形町)と松江ウォーキング協会の関係者が共同で企画。2007〜11年に松江開府400年祭推進協議会が開催したウォーキングイベントをヒントに、10回以上の打ち合わせを重ね

ウォークは思いはせウオーク

汗の心地よい 153人 祖の地の開府

て開催にこぎ着けた。

松江、安来両市のほか東京都などからも駆けつけた参加者たちは、安来市広瀬町帳の道の駅・広瀬富田城をスタート。松江市八雲町との境にある駒返トンネル前までのAコース(7キロ)と松江城までのBコース(25キロ)に分かれ、白瀧天満宮(松江市天神町)などゆかりの地を訪れながら歩みを進めた。

駒返トンネル前とかんべの里(同市大庭町)の前には休憩所が設置され、実行委メンバーが振る舞う漬物や西条柿に舌鼓を打った。

松江市東津田町の会社経営、長沢純一さん(62)は「山道の上りはきつかったが、歴史の重みを感じながら歩いて

楽しかった」と笑顔を浮かべた。

実行委員長の森泰・城西公民館長(73)は「皆さんのすが

すがしい表情が見られてうれしい。今後も続けたい」と、来年の開催に意欲を見せた。(佐々木一全)



道の駅・広瀬富田城を出発後、松江城を目指して安来市内を歩く参加者たち